

仙台市天文台 展示室展示更新計画（素案）

検討状況について

2026年7月7日

株式会社トータルメディア開発研究所

目次と議題

1）展示更新に係るスケジュール

2）初期整備、10年目展示更新の概要

3）視察

4）展示更新について

4－1）展示更新の前提条件

4－2）リニューアルコンセプト（案）

4－3）更新項目（案）とターゲットごとの訴求事項

4－4）展示ストーリー（案）

1) 展示更新に係るスケジュール

	R7（2025）年度						R8（2026）年度														
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
基幹 工程	展示計画									第一回 運営協議会	第二回 運営協議会		展示設計	第三回 運営協議会	教育委員会						
仙台市											展示計画案 確認	意見を通知			展示計画承認	展示設計案 確認	意見を通知				
仙台天文 サービス （SPC）	運営者・サポーターへのヒアリング・課題抽出						展示計画案作成			第一回 運営協議会（本日）協議内容 ・展示計画の考え方（案）			展示設計案作成			第二回 運営協議会 協議内容 ・展示計画（案）			第三回 運営協議会 協議内容 ・展示設計（案）		

	R9（2027）年度													R10
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
基幹 工程	製作 製作図作成 発注 工場製作 機器手配 現場設置・調整 コンテンツ製作 納期													
仙台市	◀ 展示設計承認 図面承認 図面確認													
仙台天文 サービス (SPC)	製作図作成 発注 工場製作・機器手配 現場設置・調整 運用 トレーニング													

2) 初期整備、10年目展示更新の概要

初期整備

初期整備・施設ミッション

宇宙を身近に

■初期整備ポイント

- 身近な地球から大宇宙へ視野のスコープを広げる
- 巨大な惑星模型を軸にした迫力ある空間構成
- 更新を用意にするため、大型壁を設けず、柔軟性、自由度を確保
- 市民と展示企画を行えるホワイトホールの設置

■体験ストーリー

地球エリア
大気圏・宙空エリア
1日、1ヶ月…日々の生活も天体現状である事を体感。一番身近な宇宙から理解を深める。



太陽系エリア
地球から少し離れ、太陽系の星々との関係、身近な太陽の正体、仲間の「惑星」の事を学ぶ。



銀河系/大宇宙エリア
銀河系・大宇宙は、まだ人の目が届かない空間。そこはどのように考えられている場所かを体感と理論で伝える。

より遠くの宇宙へ

天文学の歴史エリア
「世界の天文学」「仙台藩の天文学」を紹介。昔の人の技術等に触れ、今と変わらない思いを感じる。

**東北大学最新研究
& 企画展示コーナー**
最新情報、最新研究に触れ、家で星を見上げる、検索を試みるきっかけとする。

2) 初期整備、10年目展示更新の概要

10年目展示更新

リニューアルキーワード

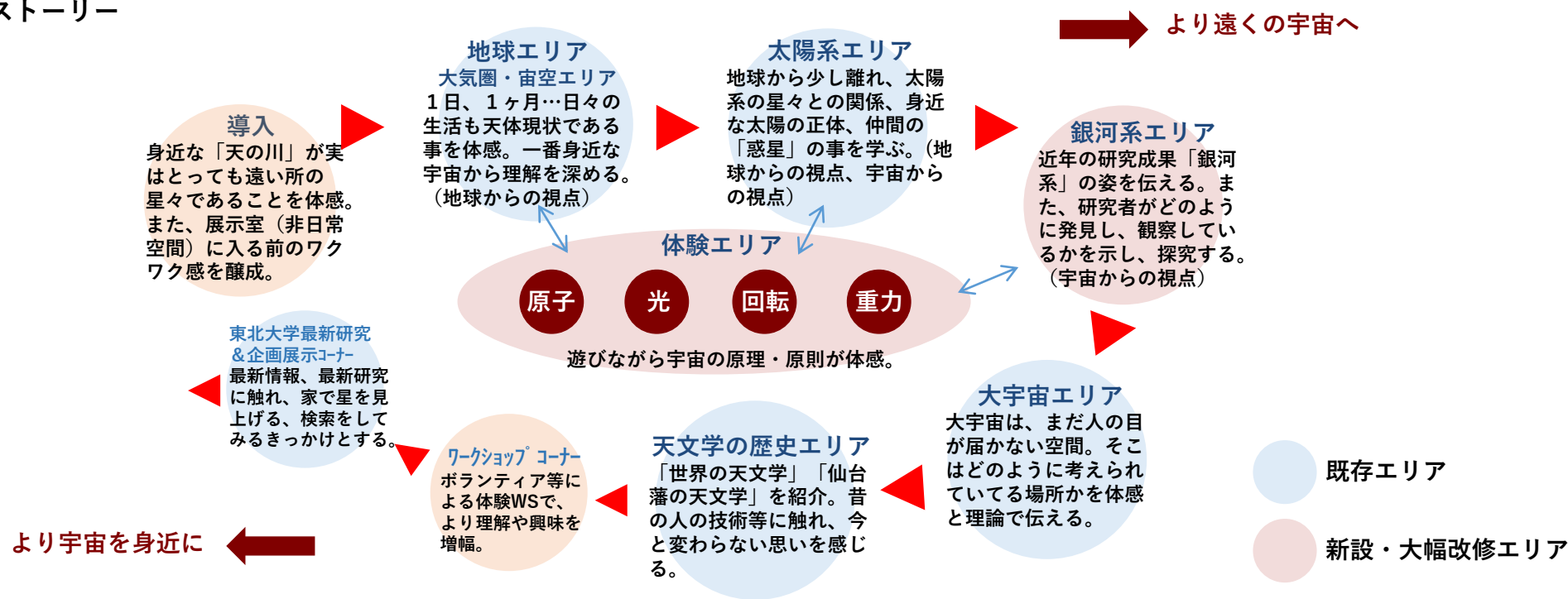
「スペース」から「ユニバース」へ

～より遠くの宇宙へ、そしてより宇宙を身近に。～

■リニューアルポイント

- 10年前にはわからなかった銀河系の姿を紹介するコーナーを新設。
・導入で身近な天の川で銀河を体感。銀河系エリアで詳細を学ぶ
- 宇宙を理解するために必要な基礎原理がわかる、体験コーナーを新設。
- コーナー（エリア）を明確に認識できるような配置とデザインに変更。
- 幼児、学校利用等の学びの格差に対応するしぐみを付加。

■体験ストーリー



3) 展示室視察



4) 展示更新について

4-1) 展示更新の前提条件

展示の要求水準におけるポイント

■目的

来館者が宇宙の仕組みや現象をそれぞれの関心に応じて学ぶことができる。

■取り扱う内容

「展示で扱う具体的な内容」として、必須事項、任意事項が定められている。

（「展示で扱う具体的な内容」は別紙参照）

その他のポイント

■不具合が発生した場合の復旧の必要性

展示品に不具合が発生して使用できなくなり、一定の時間（72時間）が経過しても完全復旧しない場合、サービス購入費が減額される（一部、代替品を使うことによって一時除外）

→不具合の発生しづらい、もしくは復旧が容易な仕組みを整える必要がある

■展示更新予算

およそ100,000千円（物価改定率による変動を含まず）

4) 展示更新について

4-2) リニューアルコンセプト（案）

昨年度ヒアリングを受けたリニューアル課題（求められること）

「宇宙を身近に。」
のさらなる推進

展示内容の拡充

仙台ならではの要素

ハードに関する課題

優先度の高い箇所から対応

リニューアルによって目指すこと

- ・ もっと「宇宙を身近に」感じるための強いきっかけを作り、天文台と市民の絆を深める
- ・ 仙台市天文台の展示の集大成として、より広く、深く、宇宙を知る機会をつくる
- ・ 仙台市ならではの歴史を活用し、他に世界のどこにもない天文展示とする

リニューアルコンセプト（追加する新しい視点）

「まだわからない。だから、宇宙を観つづける。」

長年の観測・研究によって多くのことが判明しても、まだまだ未解決の謎に溢れている宇宙。
あなたが天文台にたくさん通って、宇宙の「わかる」が増えていくと、その先には必ず「まだわからない」が待っている。
でも、だからこそ、人は宇宙を観つづける。「まだわからない」こそが、天文のロマンの正体。
謎解きのヒントは、見上げた空や、身近な現象の中にも隠れているかもしれない。

4) 展示更新について

4-2) リニューアルコンセプト（案）

リニューアルコンセプト（追加する新しい視点）

「まだわからない。だから、宇宙を観つづける。」



コンセプト実現のポイント

「わかる」が増えていく

長年の観測・研究により一歩ずつ発見を重ねてきた歴史上の天文学者たちのように、天文台を訪ねる「あなた」も、来館を重ねる度に宇宙の「わかる」が増えていく。

天文のロマンを感じる

宇宙の「わかる」が増えると、必ず「まだわからない」に突き当たる。答えを見つけ出そうとする天文学者の気持ちになって、天文のロマンに思いを馳せる。

4）展示更新について

4－3）更新項目（案）とターゲットごとの訴求事項

コンセプト実現のポイント

「わかる」が増えていく

天文のロマンを感じる

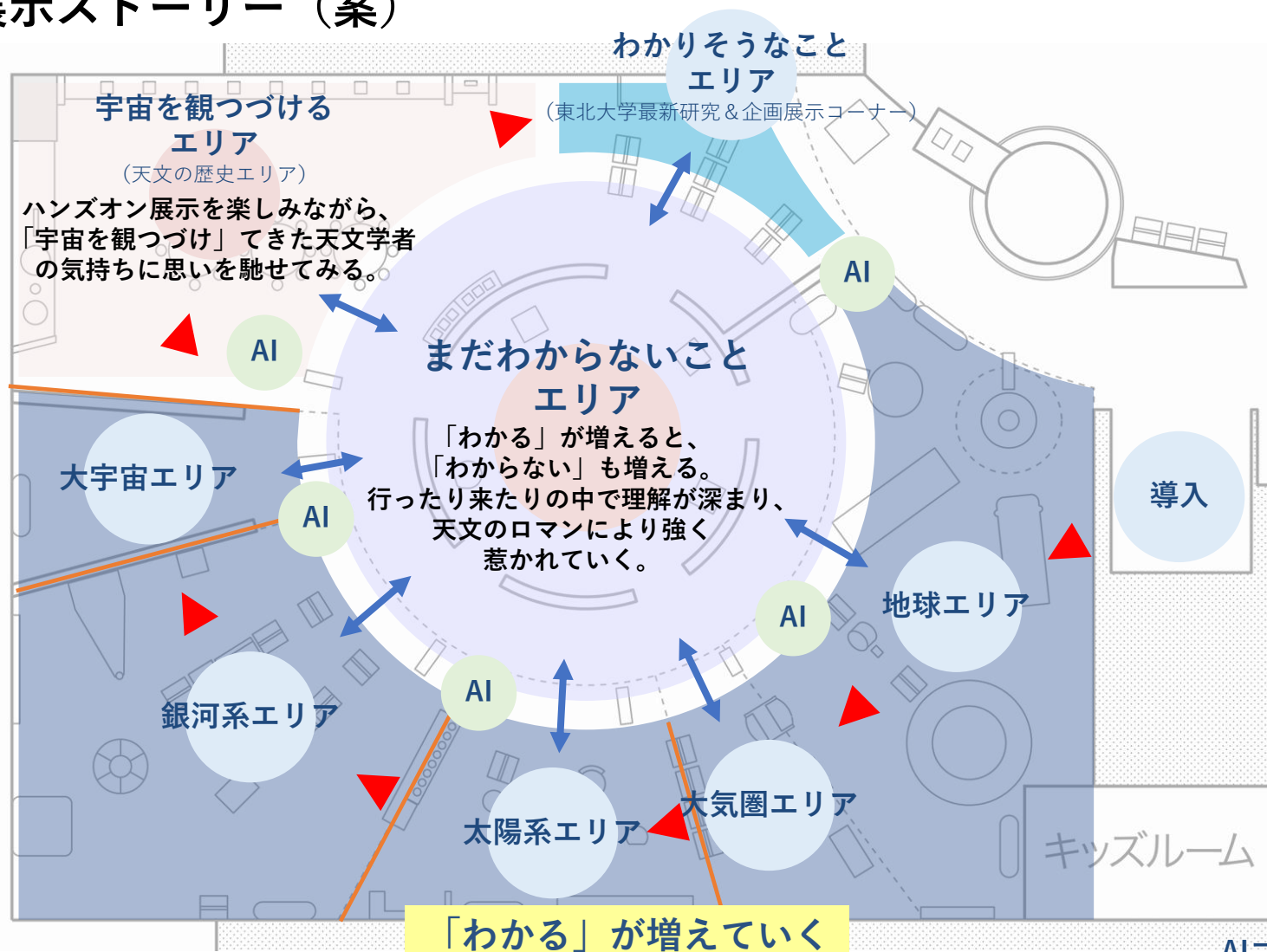
更新項目 (案)	展示グラフィック・ エリアサインの更新	体験装置の拡充	「天文の歴史」エリアと 「GEN理の広場」の統合	AIコミュニケーター	「まだわからないこと」 エリアの設置
	開館以来のデザインを更新し、展示空間のイメージを一新。情報量は維持しつつ、トピックを強調してメリハリを利かせ、関心度の差に合わせた情報を伝える。	身近な現象と宇宙の仕組みが共通していることから「宇宙を身近に」感じることのできる体験装置を拡充。市民サポーターの活躍や歴史の活用を視野に入れた体験を検討。	「天文の歴史」エリアに「GEN理の広場」要素を統合し、より幅広い世代がハンズオン展示を楽しみながら、「宇宙を観つづけ」てきた人々に思いを馳せる空間とする。	土佐名誉台長の講演記録等をはじめとした、天文台の蓄積をデータベースにしたAIコミュニケーターを導入。学校教育の段階に沿ったコミュニケーションも担う。	展示室中央に「まだわからないこと」エリアを設ける。天文のロマンをフックに、来館者の心と宇宙の距離をぐっと縮める。

ターゲットごとの訴求事項

一般的な市民	未就学児	天文台をわくわくする場所とを感じる	楽しい体験装置が宇宙と関係していることをなんとなく感じる・成長してから思い出す	楽しい体験装置が天文の歴史と関係していることをなんとなく感じる・成長してから思い出す	宇宙のことをもっと知りたい！と思う	天文台をわくわくする場所とを感じる
	小学生	展示の概要を直感的に理解する	体験をフックに、宇宙のことを一歩深く知る	科学の原理とのつながりから、天文の歴史を身近に感じる	展示内容や学校の授業の内容に関わる疑問を解決	「まだわからない」の不思議にロマンを感じる
	中高生					
	大人					
宇宙に関心のあるリピーター		宇宙に関するたくさんの知識を得る（現在の情報量を維持）	体験をフックに、宇宙に関わる現象を直感的に理解し、より深く考える	今日の仙台市天文台が天文の歴史と地続きであることを感じる	展示よりもっと詳しい内容の補足	最新の研究等を知り、天文のロマンをじっくり味わう

4) 展示更新について

4-4) 展示ストーリー（案）



既存エリア

新設・大幅改修エリア

地球から始まり、大宇宙へ。より遠くへと進んでいくストーリーを体感する中で、身近な現象と宇宙の仕組みの共通項を見つれたり、新たな知識を身につけたりして、一歩ずつ、宇宙の「わかる」が増えていく。

AIコミュニケーター
(展示室内に点在)

来館者の興味や関心度合いに沿った展示へと誘導する。